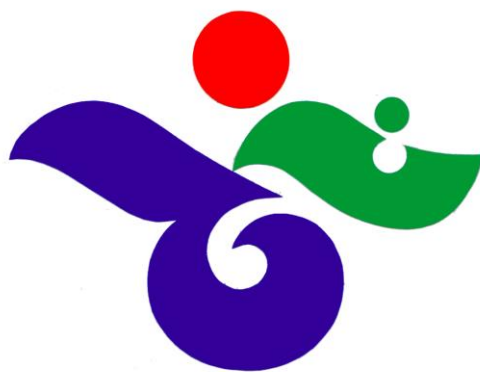


令和4年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価



令和6年3月

備前市教育委員会

目 次

1	点検及び評価について	1
2	教育委員会の活動状況について	
(1)	教育長・教育委員の紹介	2
(2)	教育委員会会議の開催状況	2
(3)	教育委員会会議以外の活動状況	5
3	教育施策の取組状況について	
(1)	施策の概要	5
(2)	施策の体系	6
(3)	施策の点検・評価	6
	生涯学習の充実	7
	就学前の教育、保育等の充実	8
	学校教育の充実	10
	歴史文化の活用と伝統文化の継承	11
	スポーツ・レクリエーション活動の推進	13
(4)	施策に対する教育委員の意見	15
4	学識経験者の意見	18

1 点検及び評価について

平成 19 年 6 月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され（平成 20 年 4 月 1 日施行）、教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について学識経験者等の知見を活用した点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し議会に提出するとともに、公表することとされました。

備前市教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに市民の皆様への説明責任を果たすため、教育委員会の点検及び評価を実施しています。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 教育委員会の活動状況について

(1) 教育長・教育委員の紹介（令和4年度）

役職名	氏名	任期	備考
教育長	松畑 熙一	令和3年5月21日 ～令和6年5月20日	
教育長 職務代理者	立花 朗	令和元年6月9日 ～令和5年6月8日	
教育委員	高取 睦	令和2年6月5日 ～令和6年6月4日	
教育委員	出井 鉄二	令和3年6月1日 ～令和7年5月31日	
教育委員	田中 道生	令和4年6月7日 ～令和8年6月6日	
教育委員	永島 英夫	平成30年6月7日 ～令和4年6月6日	令和4年度中に退任

(2) 教育委員会会議の開催状況（令和4年度）

月日	議案・報告等案件
4月22日	地方自治法第180条の2の規定により委任する事務の変更について
	備前市教育委員会事務委任規則の一部を改正する規則の制定について
	備前市教育委員会事務局処務規則等の一部を改正する規則の制定について
	備前市教育委員会事務局事務決裁規程の一部を改正する規程の制定について
	教職員の人事異動について
	令和4年度校務を分担する主任等の発令について
	令和4年度園児・児童・生徒・学級数について
	片上高等学校の入学者等の状況について
	備前市立学校に勤務する県費負担教職員の人事評価制度に係る苦情相談及び苦情処理に関する要綱及び評価者会議設置要綱の改定について
	認定こども園及び保育園の申込状況について
備前市教育委員会文化・スポーツ表彰内規の改定について	
5月23日	令和4年度備前市教育関係補正予算の提出について
	備前市体育施設設置条例の一部を改正する条例の制定について
	備前市地区公民館運営審議会委員の委嘱について
	教職員の人事異動について

	備前市自治公民館・集会所等施設整備事業補助金交付要綱の一部を改正する要綱の制定について
5月23日	教育委員会事務局職員等の任免について
5月24日	教育委員会事務局職員等の任免について
6月20日	備前市教育委員の議席の決定について
	備前市教育委員会会議運営に係る申し合わせについて
	備前市学校給食共同調理場運営委員会委員の委嘱について
	教職員の人事異動について
6月30日	教育委員会事務局職員等の任免について
7月19日	令和4年度備前市教育関係補正予算の提出について
7月22日	備前市立認定こども園の管理運営に関する規則の一部を改正する規則の制定について
	令和5年度使用高等学校教科用図書の採択について
	教職員の人事異動について
7月22日	教育委員会事務局職員等の任免について
8月22日	令和4年度備前市教育関係補正予算の提出について
8月31日	教育委員会事務局職員等の任免について
9月9日	令和4年度備前市教育関係補正予算の提出について
9月30日	教職員の人事異動について
	令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について
	令和5年備前市二十歳の集いについて
10月24日	教職員の人事異動について
11月21日	令和4年度備前市教育関係補正予算の提出について
	令和3年度児童生徒の問題行動等調査結果について
12月20日	教頭の任免について
12月22日	教育委員会事務局職員等の任免について
12月26日	国際バカロレア教育推進計画の策定について
1月30日	備前市都市公園及び備前市体育施設の指定管理者の指定について
	備前市小中一貫教育基本計画の改訂について
	備前市立学校職員服務規程の一部を改正する規程の制定について
	令和5年度全国学力・学習状況調査及び令和5年度岡山県学力・学習状況調査への参加について
	備前市自治公民館・集会所等施設整備事業補助金交付要綱の一部を改正する要綱の制定について

2月13日	備前市立小学校及び中学校並びに保育園及び認定こども園における給食費の管理に関する条例の制定について
	備前市立小学校及び中学校並びに認定こども園における学用品費の管理に関する条例の制定について
	備前市立保育園設置条例及び備前市立認定こども園設置条例の一部を改正する条例の制定について
	備前市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について
	備前市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業並びに特定子ども・子育て支援施設等の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について
	令和4年度年度備前市教育関係補正予算の提出について
	令和5年度備前市教育関係予算の提出について
	令和3年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について
	備前市立図書館等整備基本計画の策定について
2月17日	備前市教育に関する事務の職務権限の特例に関する条例の制定に係る協議について（市長）
2月27日	備前市教育に関する事務の職務権限の特例に関する条例の制定に係る協議について（議長）
3月10日	校長・教頭の任免について
3月17日	備前市教育委員会事務局処務規則の一部を改正する規則の制定について
	備前市小中一貫教育校に関する規則の一部を改正する規則の制定について
3月24日	教育委員会事務局職員等の任免について
3月27日	備前市保育園費用徴収規則の一部を改正する規則の制定について
	備前市立認定こども園の管理運営に関する規則の一部を改正する規則の制定について
	備前市立小学校及び中学校並びに保育園及び認定こども園における給食費の管理に関する条例施行規則の制定について
	備前市立小学校及び中学校並びに認定こども園における学用品費の管理に関する条例施行規則の制定について
3月28日	教育委員会事務局職員等の任免について

※開催回数 27回 議案 40件 協議 3件 報告 21件

(3) 教育委員会会議以外の活動状況

開催月	行 事 名
4 月	入園式（保育園・認定こども園） 入学式（小学校・中学校・高等学校） 教職員着任式
6 月	学校訪問
7 月	学校訪問
9 月	中学校体育大会 小学校運動会
10 月	高等学校体育祭 保育園・認定こども園・小学校運動会
11 月	青少年健全育成大会
12 月	保育園・認定こども園生活発表会 小中美術展
1 月	二十歳の集い
3 月	卒園式（保育園・認定こども園） 卒業式（小学校・中学校・高等学校） 教職員転退任式

3 教育施策の取組状況について

(1) 施策の概要

本市では、令和3年度に市の最上位計画である「第3次備前市総合計画」を策定し、市民の幸せを目指し、希望ある、未来に期待の持てるまちづくりを進めています。その中でも、教育・文化の分野においては、「誰もがいつまでも成長し続け、輝けるまち」を政策として掲げ、総合的かつ計画的に推進することとしています。

令和4年度に実施した施策を対象とした教育委員会の事務に関する点検及び評価は、第3次総合計画の基本計画における施策体系に基づいて行っています。

(2) 施策の体系

政策	基本計画 (施策)	主な取組
誰もがいつまでも成長し続け、輝けるまち (教育・文化)	生涯学習の充実	地域の教育力向上による「学び」の場の充実 図書館の蔵書の充実や利便性の向上 生涯学習の機会や成果を発揮する場の充実
	就学前の教育、保育等の充実	待機児童の解消のための体制整備 園職員の人材確保・育成、メンタルケアの強化 こども園・保育園と小学校との連携強化（接続カリキュラムの推進）
	学校教育の充実	ICT活用推進体制（機器の配置、教員スキルの向上など）の確立 ALT配置の効果と活動の情報発信 学校図書館司書配置の効果と活動の情報発信 片上高等学校のキャリア形成支援機能の情報発信 適正な学校規模の検討の推進 学校等教育施設の老朽化対策と施設整備の推進
	歴史文化の活用と伝統文化の継承	地域文化資源の実態把握と価値の解明 歴史・文化の保存・継承への意識の醸成 歴史・文化の活用の推進と興味・関心を高める情報発信 文化施設の整理・集約化の検討
	スポーツ・レクリエーション活動の推進	利用者のニーズに対応した施設環境の整備 年代を問わずスポーツに触れる場と機会の充実 スポーツと地域資源の融合による地域の活性化の推進

※ 次ページからは、基本計画（施策）ごとに評価を行っており、備前市教育委員から特に意見のある施策については、その意見を記載している。

(3) 施策の点検・評価

令和4年度に実施した教育施策について、成果指標を設定し、目標値を定め、その目標に向かってどのように進捗しているかを測定しています。次ページから施策ごとに施行状況を評価しています。

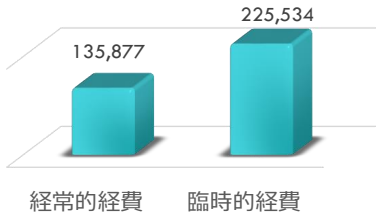
政策1 誰もがいつまでも成長し続け、輝けるまち（教育・文化）

施策01 生涯学習の充実

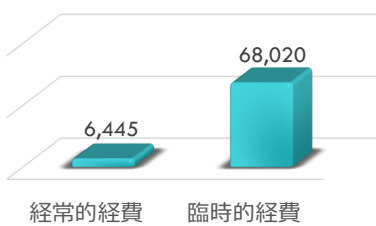
施策の方向性・目標（総合計画より）

幅広い世代の市民が、さまざまな分野での知識や技術を習得し、学んだことを発揮することができる生涯学習のための環境が整っています。地域の教育力の向上により、市民一人ひとりが、学ぶ楽しさ、喜び、充実感の中で成長し、生きがいを感じながら生き生きと暮らせるまちを目指します。

経費の内訳（千円）



特定財源の活用（千円）



※特別会計は除く

現状と解決すべき課題

【「学び」の環境づくり】

- ・地域全体で生涯学習を推進していくため、地域、家庭、学校、NPO等が連携した地域の教育力の向上が求められています。
- ・家庭教育に関する学習機会を設け、子育て家庭を地域全体で支援するとともに、青少年を取り巻く環境変化を踏まえながら、関係機関と連携して健全育成への取組を行う必要があります。

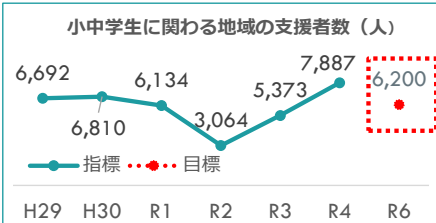
【魅力ある図書館づくり】

- ・現在の図書館は小規模であり、図書及びICT関連資料の展示、閲覧、保管などのスペースが限られ、駐車場も十分でないことから、施設の整備が必要です。
- ・市民が気軽に利用し、世代を通じて図書に親しむことができるよう、利便性やサービスの向上が求められています。

【公民館活動の充実】

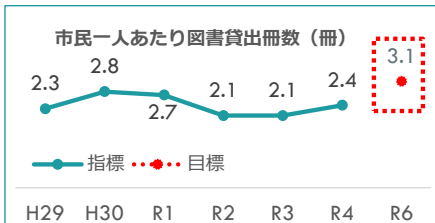
- ・趣味に関する講座に比べ、学びを中心とした講座が少ない傾向です。身近な学びの場として多様なニーズに応え、市民の自己実現を促進する公民館事業を展開する必要があります。
- ・若年層から高齢者まで幅広い世代の方に参加いただけるよう、公民館事業についてより多くの方への周知が必要です。

成果指標（達成したい目標）



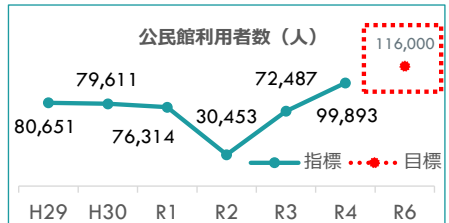
成果指標の分析

適切なコロナ対策を行いながら工夫して活動の場の創出に努めたことにより、支援者数（延べ）の増加が見られた。



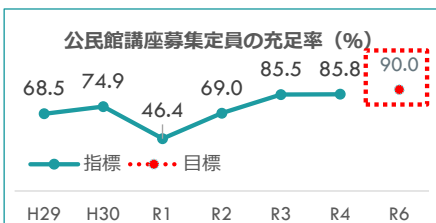
成果指標の分析

新型コロナウイルス感染症の適切な対策と利用促進を並行して行ったことで貸出冊数も増加した。引き続き利用促進に注力し目標達成を目指す。



成果指標の分析

新型コロナウイルス感染症の適切な対策と利用促進を並行して行ったことで利用者数も増加した。引き続き利用促進に注力し目標達成を目指す。



成果指標の分析（任意指標）

各年度で実績値の変動はあるものの、引き続き地域の社会教育の拠点として、幅広い年代やニーズに応えられる講座を企画実施して目標達成を目指す。

指標の説明	【小中学生に関わる地域の支援者数】「地域学校協働本部」及び「まなび塾+」支援者の年間延べ人数
	【市民一人あたり図書貸出冊数】 貸出冊数÷人口
	【公民館利用者数】 市内全公立公民館(16館)の年間の総利用者数
	【公民館講座募集定員の充足率】 応募者数÷定員

課題に対する主な取組

課題	具体的に実施した事業や取組	事業や取組の概要	予算執行（万円）	アウトプット （どのくらいの事業や取組を行ったか）	アウトカム （どれだけの成果が得られたか）
「学び」の環境づくり	地域学校協働本部事業	地域と学校の連携・協働活動	248万円	市内9本部11学校で実施	支援者数（延べ）7,377人
「学び」の環境づくり	備前まなび塾＋土曜日・長期休業講座	公民館を活用した学習支援	211万円	市内9公民館で25回程度ずつ実施	登録者数（率）190人 （12.6%）
魅力ある図書館づくり	図書館運営事業（図書館）	読書推進に関する講座などを行う	1万円	1講座	募集定員の充足率100%
公民館活動の充実	公民館講座事業（中央公民館）	子ども向けの体験型の講座を行う	32万円	2講座	募集定員の充足率60%
公民館活動の充実	公民館講座事業（日生地域公民館）	親子対象の体験型の講座を行う	11万円	2講座	募集定員の充足率100%
公民館活動の充実	公民館講座事業（吉永地域公民館）	幅広い世代の方に参加できる講座を行う	7万円	3講座	募集定員の充足率76%

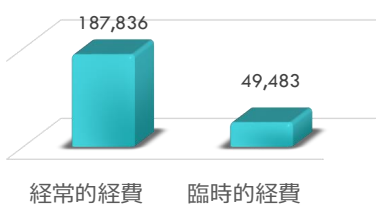
施策の評価

一次評価者	役職 氏名	【進行年度の取組内容】 （課題解決状況）	地域学校協働本部、備前まなび塾等に関する地域の支援者が活動しやすい環境条件を整えるとともに、社会教育関係団体をはじめ各種NPO団体等との連携を円滑に行えるようなシステムを構築する。公民館活動は、世代や地域のニーズに沿った講座を充実させ、参加者増をめざす。新図書館建設については「新しい図書館を創ろう会」において意見聴取を行い、設計業務に反映していく。また、市民みんなで作る「まちじゅうどこでも図書館構想」を実践していく。
	社会教育課長 江見 清人 地域教育課長 池田 海之 図書館プロジェクト推進課長 高橋 清隆	【翌年度の取組目標】	今後、地域学校協働本部事業と学校運営協議会（コミュニティースクール）を一体的に推進することで、相乗効果を発揮し学校運営の改善と地域づくりが同時に進んでいくことを期待する。公民館は地域の学びの拠点として、学校と地域をつないで「備前未来学」によるESD・SDGsを推進し、利用者増を図る。新図書館は設計が完了したら建設に取り組む。
二次評価者	役職	社会教育部長	生涯学習の充実とは、市民が生きがいを感じながら、学ぶ楽しさや喜びを感じるメニューをいかに提供していくかにかかっている。地域学校協働活動は市内の各学校ですべて実施できることを目標とし、備前まなび塾については、市民が新たに取り組んでみたいメニューも行くこと。新図書館については、地域の情報拠点として市民が集い、市民が学び合える空間となるようなものを、市民の皆さんと創っていくこと。公民館については、世代や地域のニーズに沿った講座の充実と地域の拠点となるような支援や情報発信を行うこと。
	氏名	畑下 昌代	

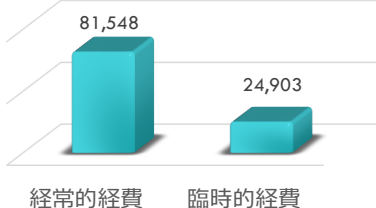
施策の方向性・目標（総合計画より）

認定こども園（以下、「こども園」という。）、保育園、民間の小規模保育園、認可外保育施設の環境が整い、家庭保育児と就園児の両方が等しく幼児教育を受けられるまちを目指します。また、支援を必要とする就園児には地域の子育て機関などと連絡を密にし、こども園・保育園・小学校の積極的な連携により、子どもの発達や学びの接続ができていくまちを目指します。

経費の内訳（千円）



特定財源の活用（千円）



※特別会計は除く

現状と解決すべき課題

【待機児童の解消】

・保育料の無償化により、0～2歳児の入園希望者が増加した結果、待機児童が発生し入園したい園に入れない家庭があるため、待機児童解消へ向けた対策が必要です。

【保育士・保育教諭の人材確保】

・0～2歳児における保育料の無償化により保育需要が増大しているため、受入れに対応できる保育士・保育教諭の確保が必要です。

【支援が必要な園児への対応】

・支援が必要な子どもが増えており、保育士配置基準以上の保育士を配置する必要があるため、保育士・保育教諭の人材確保が必要です。

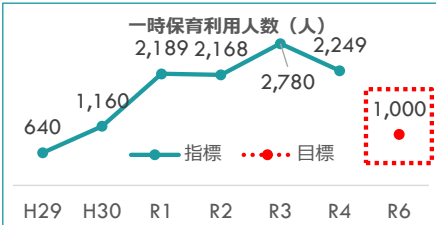
【保護者等からの相談対応】

・保護者等からの相談対応については、保育士・保育教諭が複数名、長時間の対応を求められるケースも多いため、保育士・保育教諭のサポートが必要です。

【こども園・保育園と小学校との連携】

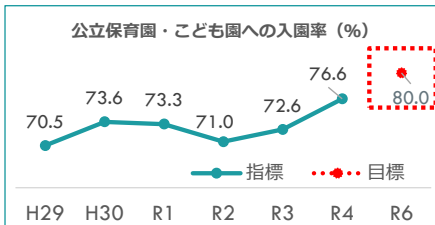
・こども園・保育園の5歳児から小学校1年生へ、互いの交流を促進し、子どもたちの成長や学びの状況について円滑な引き継ぎが必要です。

成果指標（達成したい目標）



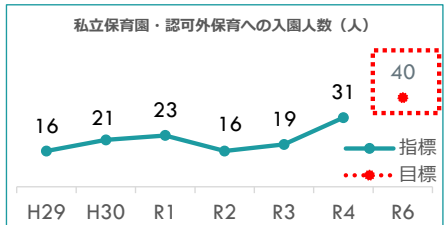
成果指標の分析

保護者の就労形態の多様化、疾病等により一時的に保育を必要とする子どもが増加している状況である。



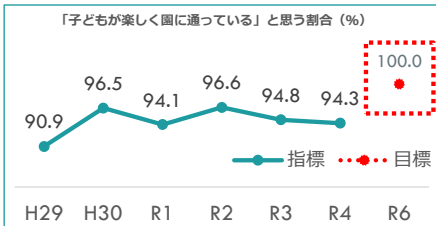
成果指標の分析

保育料の無償化等の影響により入園率は増加傾向となっているが、受け入れ体制を整えて一層の増加を目指す。



成果指標の分析

令和4年4月に本格運営となっている小規模保育園の整備などにより入園者数の目標達成を見込んでいる。



成果指標の分析

保護者アンケートによる満足度は概ね高い水準で推移している。今後は保育の質向上などにより目標数値を目指す。

指標の説明

【一時保育利用人数】伊部・日生・吉永認定こども園の年間一時保育利用人数の合計
 【公立保育園・こども園への入園率】全入園児数÷0～6歳未満の人数
 【子どもが楽しく園に通っていると思う割合】保護者アンケートにより回答のあった割合

政策1 誰もがいつまでも成長し続け、輝けるまち（教育・文化）

施策02 就学前の教育、保育等の充実

課題に対する主な取組

課題	具体的に実施した事業や取組	事業や取組の概要	予算執行 (万円)	アウトプット (どのくらいの事業や取組を行ったか)	アウトカム (どれだけの成果が得られたか)
待機児童の解消	小規模保育所整備事業	NPO法人が整備する小規模保育所整備に対して補助する。	4,354万円	私立保育園への運営委託料	待機児童数の減少 (R元年度末:19人→R4年度末:5人)
待機児童の解消	認可外保育施設等利用助成金	認可外保育施設等に入所する児童の保護者に対して保育料を助成する。	635万円	認可外施設の利用助成金 (対象児童 26人)	
保育士・保育教諭の人材確保	保育ICT化推進事業	保育士の業務改善により保育の質向上のため園のICT化を進める。	302万円	園のネットワーク構築、保育業務支援システムの導入	令和4年度から運用開始 (登降園管理、保護者連絡等)
支援が必要な園児への対応	職員研修委託事業	支援が必要な園児の把握、適切な支援に向けた研修を行う。	60万円	職員研修の実施回数 (市内保育園・こども園 30回)	支援対象児童 68人
こども園・保育園と小学校との連携	接続カリキュラムの推進	接続カリキュラムによる取組を進めるとともに内容を検証する。	-	こども園・保育園と小学校との交流促進及び情報共有	就学前から小学校への円滑な接続

施策の評価

一次評価者	役職 氏名	【進行年度の取組内容】 (課題解決状況)	いわゆる待機児童の解消に資するため、民間による小規模保育所の運営が開始されるとともに、認可外保育所等利用に対する保育料助成も継続的に交付している。また、保育ICT化事業やメンター制度の導入による保育士の業務改善や人材確保、支援が必要な園児に関する研修、小学校との連携等を進めている。
	幼児教育課長 文田 栄美	【翌年度の取組目標】	子育て支援の充実を図るため、保育料無償化などによる市民満足度は高いものの、0歳児から2歳児で待機児童が発生している状況である。こうした保育需要への対応と質の高い保育を提供するため、保育教諭等の人材確保や研修による人材育成、さらには業務負担の軽減に向けた取組を進めていきたい。また小学校との接続の取り組みを途切れることなく継続していきたい。

二次評価者	役職 氏名	教育振興部長 石原 史章

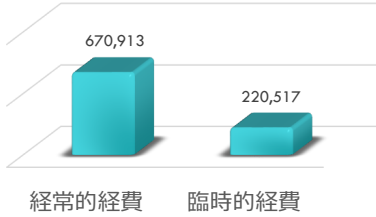
政策1 誰もがいつまでも成長し続け、輝けるまち（教育・文化）

施策03 学校教育の充実

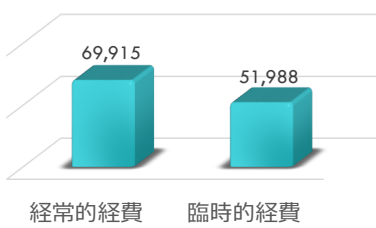
施策の方向性・目標（総合計画より）

子どもたちが、主体的に学ぶことができる環境を整備し、学びに出会う機会を充実させることにより、備前市で学んだことに誇りを持ち、これからの時代を生き抜く力を獲得できる教育が行われ、「生きる力」「創造する勇氣」「郷土を愛する心」を育むことができるまちを目指します。

経費の内訳（千円）



特定財源の活用（千円）



※特別会計は除く

現状と解決すべき課題

【ICT環境を活用した教育の充実】

・教職員のICT機器活用スキルの向上やICT機器活用による授業改善に向けた取組が必要です。

【ALTを活用した外国語教育環境の充実と周知】

・ALT全校配置後の学力調査結果には外国語教育環境充実の効果が表れています。しかしながら、保護者や地域の方々のALT活用イメージの共有が十分とは言えません。家庭・地域・学校が一体となり、外国語教育環境をより効果的に活用するためには、情報発信の充実及びフィードバックを踏まえた活用方法の一層の充実が必要です。

【学校図書館司書全校配置による教育環境の充実と周知】

・学校図書館司書が全校配置され、効果的な活用がなされています。しかしながら、保護者や地域の方々の学校図書館司書の活用イメージの共有が十分とは言えません。家庭・地域・学校が一体となり、学校図書館をより効果的に活用するためには、情報発信の充実及びフィードバックを踏まえた活用方法の一層の充実が必要です。

【片上高等学校の魅力化推進及び周知】

・継続的に片上高等学校の教育活動の特色や魅力の強化と周知が必要です。

【学校の再編整備の検討】

・少子化が進んでおり、学校が小規模化している中、効果的な学校運営や教育機会の均等の観点から学校規模の適正化と地域における学校の重要性とのバランスが必要です。

【学校等教育施設の老朽化対策】

・昭和40～60年代に集中的に施設が整備されたため、老朽化が進んでいます。将来一斉に更新時期を迎えるため、計画的な改修や更新対応が求められています。また、バリアフリー化等の施設の整備も必要です。

成果指標（達成したい目標）

ICT活用スキル達成度・ICT環境満足度（%）



成果指標の分析

令和5年度学力・学習状況調査のうち「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使って学んだことは他の勉強の役に立つと思いますか。」という質問に対して、肯定的な回答が小学校96%、中学校95%であった。

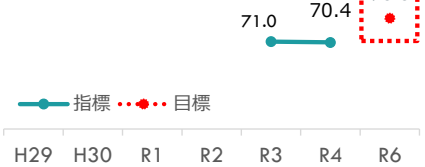
外国語教育環境満足度（%）



成果指標の分析

令和5年度学力・学習状況調査の質問紙「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」という質問に対して、肯定的な回答が中学校88.8%であった。（4年に1度の調査）

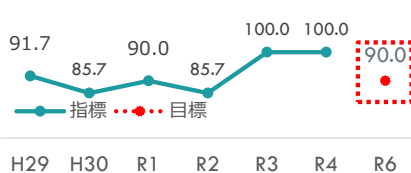
貸出冊数・学校図書満足度（%）



成果指標の分析

令和3年度：小学生：101冊/人 72%、中学生：22冊/人 70.1%
令和4年度：小学生：79冊/人 73.4%、中学生：24冊/人 67.4%

希望進路意識・進路決定率（%）



成果指標の分析

片上高等学校におけるキャリア教育の充実が推進されている。年度によって数値は変わってくるものの概ね目標値並みとなっている。

指標の説明

【ICT活用スキル達成度・ICT環境満足度】 ICT活用スキル達成度(教員)とICT環境満足度(児童生徒)の平均値（備前市学習環境に関する調査より）
 【外国語教育環境満足度】 複数調査項目の平均値（備前市学習環境に関する調査より）
 【貸出冊数・学校図書満足度】 貸出冊数の達成率と学校図書満足度平均値（備前市学習環境に関する調査より）
 【希望進路意識・進路決定率】 希望する進路が決定している生徒の割合（進路意識調査・進路決定調査より）

課題に対する主な取組

課題	具体的に実施した事業や取組	事業や取組の概要	予算執行（万円）	アウトプット （どのらの事業や取組を行ったか）	アウトカム （どれだけの成果が得られたか）
ICT環境を活用した教育の充実	家庭学習に係る通信機器の整備支援	ネット環境がない家庭へモバイルルーターを配置する。	71万円	市内小中学生の学習タブレット専用として貸し出し用のモバイルルーターを106台配置している。	各家庭でオンライン学習ができる環境が整っている。
ALTを活用した外国語教育環境の充実と周知	ALT配置事業	ALTを1校1名配置する。	8,324万円	ALTの学校配置率 100%	R5年度岡山県学力・学習状況調査では、中学1年生は県平均正答率と同等、中学2年生は2ポイント県平均正答率を下回っている。
学校図書館司書全校配置による教育環境の充実と周知	学校図書館運営事業	学校図書館の充実及び児童・生徒の読書活動の推進を図る。	4,217万円	小中学校全校に図書館司書を配置した。	「学校図書館の現状に関する調査(文科省R2)」にある貸出冊数(年間1人あたり)の小中学生49冊、中学生9冊を大幅に上回っており、読書活動の推進が図られている。
片上高等学校の魅力推進及び周知	家庭学習に係る通信機器の整備支援	ネット環境がない家庭へモバイルルーターを配置する。	5万円	片上高等学校の生徒の学習タブレット専用として貸し出し用のモバイルルーターを7台配置している。	各家庭でオンライン学習ができる環境が整っている。
	夜食費補助の取組	生徒の学習意欲の向上や健康管理を目的として夜食費を補助する。	75万円	39人延べ3,946回分の軽食及び弁当を補助	生徒が学習前に夜食を食べることで学習意欲の向上が図られている。
学校等教育施設の老朽化対策	老朽化した施設の改修事業	屋上防水の改修	199万円	西鶴山小学校体育館の屋上防水改修	老朽化した施設を改修することで、安全な学習環境を整えた。

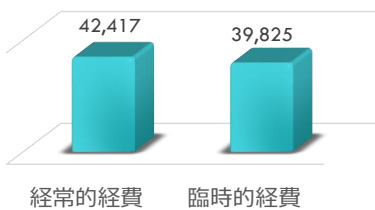
施策の評価

一次評価者	役職 氏名	【進行年度の取組内容】 （課題解決状況）	ICT機器、ツールの活用による授業改善を推進している。 1校に1人常勤のALTを配置し、外国語教育の充実を図っている。 教員と学校図書館司書とが連携し、子どもの読書活動や図書資料の活用を推進している。 片上高等学校においては、卒業後を見越したキャリア教育に取り組んでいる。 学校施設の雨漏り等の応急対応を中心に老朽化対策を行う。
	教育DX推進課長 行正 英仁 小中一貫教育課長 谷口 健一 教育総務課長 竹林 伊久磨	【翌年度の取組目標】	ICT支援員の補強により、教員のICTの活用を推進し、授業や業務の改善を進める。 ALT活用に係る好事例の情報を収集し、より効果的な活用を進める。 学校図書館司書の活躍の場の多様化を進める。 片上高等学校におけるキャリア教育の充実に係る取組の支援の在り方を検討する。 学校施設の老朽化対策について、学校の要望等を精査しながら必要な改修を行う。
二次評価者	役職 氏名	教育振興部長 石原 史章	上記取組の結果、各課題解消に向け一定の成果を得ている。なお、ICT機器活用による授業改善及び家庭学習での活用の取組など、課題の多くは半年での成果のみならず、児童生徒の経年での効果分析と併せて検証していくことが重要である。また、ALT及び学校図書館司書の全校配置のメリットを生かした授業の推進については、効果的に活躍の場をより一層多様化させるなど、系統的取組の中で検証し、改善を積み重ね、授業効果を高めていく取組が重要である。その取組の中、読書活動の推進はしっかり図られており、学力向上に結実していくことも成果として注視していきたい。

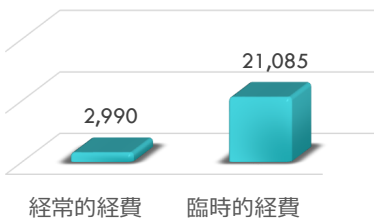
施策の方向性・目標（総合計画より）

本市の歴史・文化を守り、未来に伝えるための保存と活用を進める中、市民一人ひとりが地域の歴史や文化を学び、そこに住むことに誇りや喜びを感じられるまち、新たな文化的魅力の創出と情報発信による交流が生まれるまちを目指します。
また、誰もが身近なところで、いつでも、気軽に芸術文化に触れることができるまちを目指します。

経費の内訳（千円）



特定財源の活用（千円）



※特別会計は除く

現状と解決すべき課題

【歴史・文化に関する調査・整備】

・歴史・文化に関する調査ができていないものや、調査がされていても活用するための環境整備等ができていないため認識されていないものがあり、市民へ周知できるよう調査や整備が必要です。

【歴史・文化に関わる人材確保】

・歴史・文化や芸術活動を重要であるとする市民が少なく、特に若者の関心が低い状態です。
・地域の歴史・文化等に係る人材を地域ぐるみで確保していくことが必要です。

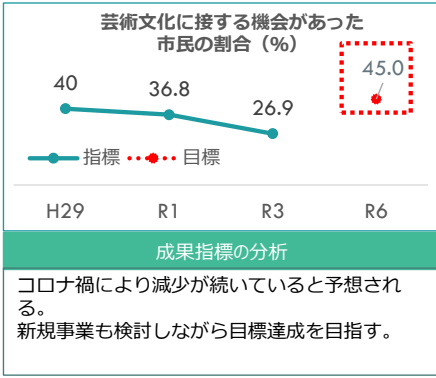
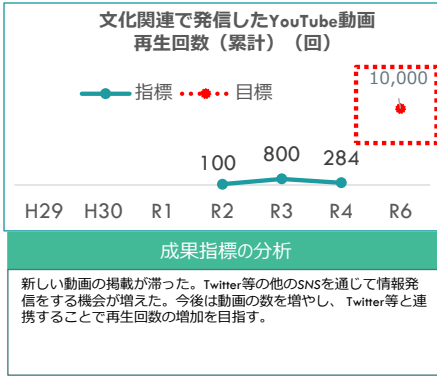
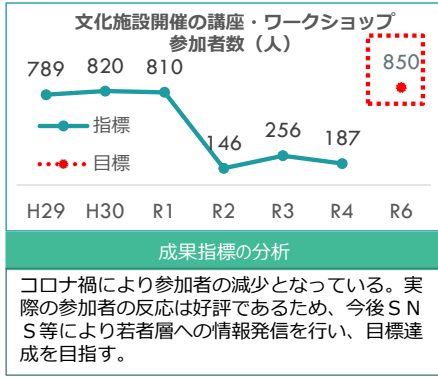
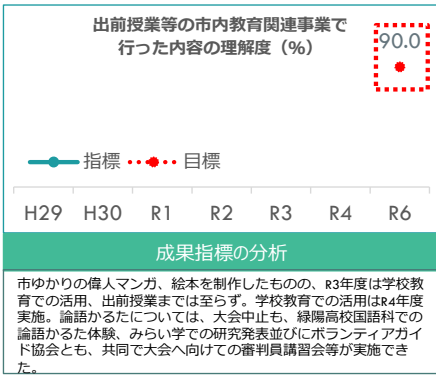
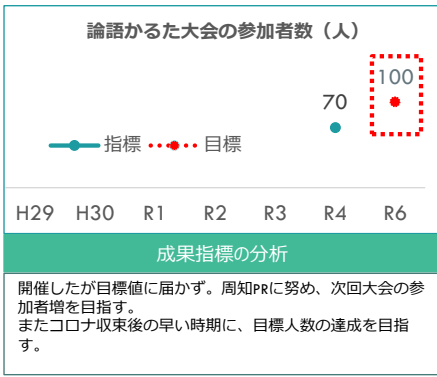
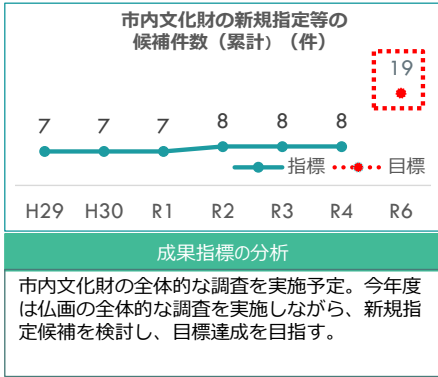
【歴史・文化の市民理解やPR活動】

・歴史や文化を学び、地域の成り立ちを理解した上で、守り伝え、活かしながら、その活動を知る機会を設けるとともに、文化遺産の魅力を発信することが必要です。
・ゆとりとるおいの実感できる心豊かな社会を実現するため、芸術文化に気軽に触れる機会を提供することが必要です。

【複数ある文化施設の整理】

・文化施設は、老朽化等により大規模改修や耐震化等が必要な施設が多い状況です。また、類似施設もあり、機能の集約化などについても検討することが必要です。

成果指標（達成したい目標）



指標の説明
【市内文化財の新規指定等の候補件数（累計）】 対象文化財の調査件数（文献調査及び現地調査）
【出前授業等の市内教育関連事業で行った内容の理解度】 出前授業等における児童へのアンケート調査により回答のあった割合
【芸術文化に接する機会があった市民の割合】 市民意識調査により回答のあった割合

政策1 誰もがいつまでも成長し続け、輝けるまち（教育・文化）

施策04 歴史文化の活用と伝統文化の継承

課題に対する主な取組

課題	具体的に実施した事業や取組	事業や取組の概要	予算執行（万円）	アウトプット （どのらの事業や取組を行ったか）	アウトカム （どれだけの成果が得られたか）
歴史・文化に関する調査・整備	湖だまり石垣及び付帯構造物測量業務委託	井田遺跡の湖だまり石垣及び付帯構造物の三次元測量	795万円	三次元点群データと測量図の作成に取り組んだ。	三次元測量を実施したことにより、遺跡の構造等がより詳細になり、保存方法や築造年代を検討するための基礎的データを得る事ができた。
歴史・文化に関する調査・整備	市内遺跡調査	井田跡の確認調査	349万円	井田跡の水路・堤構築方法（基礎）の確認	井田跡の文化的価値を判断するための基礎的データを得る事ができた。
歴史・文化に関わる人材確保	旧閑谷学校世界遺産登録推進事業（論語かるた）	論語かるた大会の実施	16.9万円	論語かるた大会参加申込数70人	【学校・地域協力者】 緑陽高校で論語かるた大会への参加があった。 ボランティアガイド協会等の論語かるた大会へn協力を得られた。
歴史・文化の市民理解やPR活動	芸術文化活動推進事業	こども備前焼作品展、文学賞の実施	84.9万円	こども備前焼作品展応募者数 982人 文学賞応募者数 369人	【こども備前焼作品展】例年並みの応募者数を確保できた。 【文学賞】小学生の応募が減少した。
歴史・文化の市民理解やPR活動	地域の特色ある埋蔵文化財活用事業	ワークショップ「鏡・とんぼ玉をつくろう」を開催「備前焼」に関連する企画展を開催	199.9万円	トンボ玉をつくろう4回（1日2回×2日） 鏡工人4回（1日2回×2日） 石槽をつくろう2回（1日2回） 企画展「漣と備前焼」を開催	ワークショップ参加者 76人 企画展来場者 170人
複数ある文化施設の整理	文化施設の今後の方針検討	文化施設の集約化	-	備前焼ミュージアムの動向を見ながら各文化施設の方向性を検討	個別施設計画の文化施設の統合後検討（案）で検討中

施策の評価

評価者	評価項目	評価内容
一次評価者	役職氏名	【進行年度の取組内容】 （課題解決状況） 地域の文化財については、令和2年度から進めている井田調査事業はじめ、文化財保存活用地域計画に基づき、計画的な保存・活用・整備を行っている。旧閑谷学校については、4市での世界遺産登録に向けた活動及び熊沢番山のマンガや創作絵本を活用し、魅力発信・情報発信を行っている。文化施設については、コロナ禍の対応策としてYouTubeによる動画配信を行っている。また施設の集約化も検討している。文化芸術活動については、文学賞などの従前の事業及び新規事業を一般財団法人備前市文化芸術振興財団と協力し開催することにより芸術活動の振興を図っていく。
	日本遺産課長 杉山 麻里 社会教育課長 江見 清人 文化振興課長 岡田 真理	【翌年度の取組目標】 今後も文化財については、文化財保存活用計画に基づいた事業を実施し、計画的な保存・活用・整備を行っている。旧閑谷学校については、世界遺産登録に向けた4市での活動と日本遺産「旧閑谷学校」「備前焼」「北前船寄港地」について日本遺産課と連携し関連史跡の魅力発信を行っている。文化施設について企画展等の充実を図るとともに、施設の集約化も進めていく。文化芸術活動については、新規事業も含め、一般財団法人備前市文化芸術振興財団と協力し事業を実施していく。
二次評価者	役職	社会教育部長
	氏名	畑下 昌代
		文化財については、保存活用地域計画に基づき、計画的な調査や把握を進め、文化財の保存・活用の取り組みの継承や支援を行っていくこと。旧閑谷学校世界遺産登録については、4市の活動と共に日本遺産の関連部署と連携を図り、史跡の魅力や情報発信を活性化していくこと。歴史・文化のPR活動については、SNS等で若年層も興味を持つような情報発信を行い、地域の文化財や文化芸術に親しんでもらえるような機会の提供を行っていくこと。

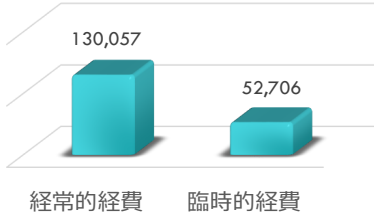
政策1 誰もがいつまでも成長し続け、輝けるまち（教育・文化）

施策05 スポーツ・レクリエーション活動の推進

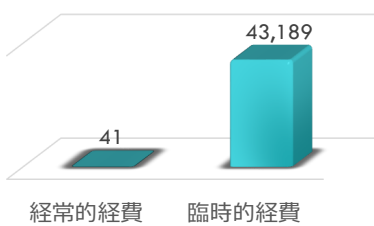
施策の方向性・目標（総合計画より）

すべての人々が「する」「みる」「ささえる」といったさまざまな形でスポーツに参画することで、一人ひとりが生きがいや元気を持って生活するとともに、スポーツを通じて地域資源を有効に活用した施策を展開することにより、活力あるまちを目指します。

経費の内訳（千円）



特定財源の活用（千円）



※特別会計は除く

現状と解決すべき課題

【スポーツ施設の整備】

- ・スポーツ施設の情報発信や利便性向上などにより、施設の利用促進を図るとともに、設備の充実やバリアフリー化など、誰もが気持ちよく利用できる環境整備が必要です。
- ・点在する施設及び老朽化する施設については、公共施設個別計画に基づき施設の存続や除却を判断し、利用者ニーズと財政負担を踏まえた施設整備も求められます。

【生涯スポーツの充実】

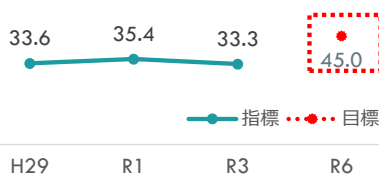
- ・スポーツを定期的に行っている市民の割合（スポーツ実施率）が減少傾向にある。それぞれの年齢、嗜好、目的などに応じてスポーツに親しむことができる環境が求められています。
- ・20歳代から50歳代までの年代では、労働や子育てにより1週間のうち1日も運動しない人の割合が60%を超えている状況にある。スポーツに触れる機会の創出やきっかけづくりが必要です。

【スポーツによる地域活性化】

- ・県内外から参加できるイベントの開催やスポーツ環境の整備など、スポーツを通じたまちの活性化に向けた取組が必要です。
- ・備前市の持つスポーツ資源と「観光」「文化」などの地域資源を活用した新たな価値の創出が求められています。

成果指標（達成したい目標）

週1回以上運動する人の割合（％）



成果指標の分析

目標値に対する74%という結果になったが、スポーツに触れる機会の創出やきっかけづくりを推し進めていく。

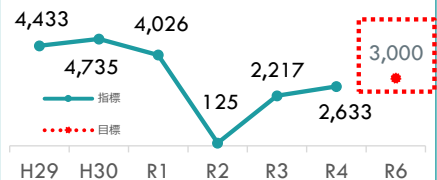
市内体育施設の利用者数（人）



成果指標の分析

R4については、新型コロナウイルス感染症の影響から脱却しつつあり、利用者増となった。今後も利用者増に向けて受入態勢等を整備していく。

県内外を対象とした大会等の参加者数（件）



成果指標の分析

R4については、新型コロナウイルス感染症の影響から脱却しつつあり、大会等への参加者も増加している。今後も参加者増に向けて大会等の実施を促進していく。

指標の説明

【週1回以上運動する人の割合】 市民意識調査により回答のあった割合

【市内体育施設の利用者数】 久々井、日生、吉永運動公園の年間利用者数の合計

課題に対する主な取組

課題	具体的に実施した事業や取組	事業や取組の概要	予算執行（万円）	アウトプット （どのくらいの事業や取組を行ったか）	アウトカム （どれだけの成果が得られたか）
スポーツ施設の整備	利用者のニーズに対応した施設環境の整備	体育施設の改修・修繕	23,396万円	体育施設の改修・修繕・整備 改修費等前年度比：+13.5%	経年使用による改修・修繕費及び施設整備による工事請負費の増加
生涯スポーツの充実	年代を問わずスポーツに触れる場と機会の充実	各種スポーツ教室や出前スポーツ教室への参加促進	573万円	スポーツフェスティバルやそれ以外の各種スポーツ教室等の開催 参加者前年度比：+18.8%	今後も参加者の増加に向けて実施可能なスポーツ教室等の開催を実施

施策の評価

一次評価者	役職 氏名	【進行年度の取組内容】 （課題解決状況）	市民の日常生活にスポーツが一層取り入れられるよう、スポーツフェスティバルや各種スポーツイベントなどを通じて、スポーツの楽しみ、醍醐味を見出してもらえるよう工夫をするとともにスポーツ実施率の向上に努める。
	スポーツ振興課長 山本 敏博	【翌年度の取組目標】	スポーツ大会や各種スポーツイベントを開催し、スポーツを始めるきっかけづくりとなる機会や場所を継続的に提供していく。また、スポーツ施設の劣化状況を把握し長寿命化を図る。
二次評価者	役職	文化スポーツ部長	スポーツ施設の老朽化が見受けられます。利用者のニーズと財政負担を考慮しながら、順次施設改修等が必要だと考えます。また、週1回以上運動する人の割合が低下していることから、運動を始めるきっかけとなる機会や、継続できる仕組みを構築する必要があると考えます。
	氏名	森 優	

(4) 施策に対する教育委員の意見

令和4年度に実施した教育施策に対する教育委員の意見等は次のとおりです。

施策名	生涯学習の充実
ご意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学びは人生を豊かにすることである。どの年代にも学べる環境整備が必要である。地域の公民館活動の講座の充実、情報発信に期待したい。 ・図書室しかなかった備前市に待望久しい図書館ができることに、大いに期待する。備前市の生涯学習の拠点とすべく、図書館ができてから始めるのではなく、すぐにでも着手すべきことは山積している。その一つが郷土史と備前に関わりのある作家の図書の充実である。例えば片上町史やその他の郷土史の書籍、歴史資料も乏しいと思われる。また、備前市にゆかりの深い直木賞作家である藤原審爾、柴田錬三郎、その他の作家の著書は可能な限りそろえてもらいたい。また、一昨年に歴史民俗資料館で行われた備前市出身の作家である小手鞠るいの講演会は大変すばらしかった。今後もこのような顕彰イベントを企画、催行してもらいたい。 ・施策評価シートに掲載されている取組を押し進めていただきたい。生涯学習を通じて、共通の趣味や関心を持つ人たちと出会い、新しいコミュニティを作れるようになればと思う。

施策名	就学前の教育、保育等の充実
ご意見	<ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園の環境整備が進み、ICTによる働き方も改善されており、評価できる。より一層業務負担の軽減を期待する。 ・保育士の人材確保、人材育成は毎年大きな課題であり、積極的に取り組まなければいけない。リクルート戦略、活動により人材を確保してほしい。 ・少子化の傾向にもかかわらず待機児童があるのは残念である。保育料の無償化、ALTの配置など手厚い支援は継続しつつ、安全、安心な保育をお願いしたい。 ・認定こども園など、幼児教育の現場における不祥事や、事件、事故がなかったことは大変良かった。

施策名	学校教育の充実
ご意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT及び学校図書館司書の全校配置は評価できる。この環境を学びの向上に結び付けていけることを期待する。また、ICT機器、ツールの活用の充実のためにICT支援員の補強が大切である。 ・備前市は他市町村に先がけて、計画、実行していることが多く、実現させるための人材も招へいし、着実に前進していると思

	<p>うが、急激な社会の変化を背景に、学校教育の現場で取り残されている課題も多いのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめは、学校教育現場を超えた問題でもあり根絶は困難であると思うが、早期発見、適切な初期対応に努め、深刻な事態に陥ることを防いでもらいたい。 ・現在取り組んでいる国際バカロレア教育については、学校のみでなく、保護者や地域の方々にも分かりやすく情報を伝えてもらいたい。
施 策 名	歴史文化の活用と伝統文化の継承
ご 意 見	<ul style="list-style-type: none"> ・旧閑谷学校、備前焼ほどの世代にも浸透しているものだが、北前船寄港地など市民に浸透が薄い歴史文化財の魅力的な情報発信が必要である。北前船寄港地に関連して、加子浦歴史文化館の駐車場確保が必要ではないか。 ・備前市は歴史遺産の宝庫であり、これらの遺産を県内外の人たちに正しく、楽しく伝える極めて優秀なボランティアガイドの人材にも恵まれている。この遺産と人の資源を活用して備前市をアピールし、備前市を訪れるお客様を増やし、備前市のファンをもっと増やしていくための方策が必要である。 ・伝統文化や伝統行事は町内会を中心に継承されてはいるが、高齢化、少子化により、前途が危ぶまれている。その一方で片上地区の備前片上ひなめぐりなど、県下でも有数のイベントに育ってきた催しもある。地域の人たちの創意と熱意、団結が実を結んだものだが、担い手の高齢化により、ここにも存続の危機に陥っていく兆候が現れている。地元の高校生など若い力も借りながら、存続、発展させてもらいたい。 ・地域の方々、特に小中学生が見て、触れる、感じる機会をつくり、備前市の歴史文化、史跡などに思いを寄せることが重要である。

施 策 名	スポーツ・レクリエーション活動の推進
ご 意 見	<ul style="list-style-type: none"> ・誰でもどこでも体を動かせる環境を整えるため、今ある施設の充実を期待する。 ・部活動の地域移行に向けた取組の推進にも期待したい。 ・地元出身のプロ野球選手の活躍で備前市は大変盛り上がっている。コロナ禍もほぼ終息した今、スポーツやレクリエーションを老若男女が楽しめるようになってきたので、誰でも参加でき、楽しめる催しを増やしてもらいたい。 ・備前市を文化とスポーツの街として、もっと盛り上げていきたいが、県外から来ていただいても備前市内の宿泊施設が不十分で、十分なおもてなしができていないのが残念である。当面は

	<p>近隣の赤穂市、瀬戸内市などと連携しながら、県外からの誘致を含めて備前市内の宿泊施設の増強を進めていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none">• 近隣市町にはある大型遊具などを含むレクリエーション施設が備前市にないために市外に出かけている状況があるので、そのような施設が必要と思う。
--	--

4 学識経験者の意見

備前市教育委員会は市の第3次総合計画（令和3年度策定）を受け、「誰もがいつまでも成長し続け、輝けるまち」の実現を目標に、生涯学習の充実をはじめ、学校教育、就学前教育・保育の充実、歴史・伝統文化の活用・継承、スポーツ・レクリエーション活動の推進といった多岐にわたる事業に取り組んでいます。それらの進捗については、毎年自己点検・評価を実施し、事業の現況把握に努めるとともに、得られた成果と課題をもとに今後達成すべき目標を明らかにしています。法定の義務とは言え、広く市民との信頼関係醸成の観点からみても、極めて意義の大きな取組です。

山積する教育課題に加え、令和4年度は新型コロナウイルス感染症が未だ猛威を振るっている時期でもありました。そのような状況下で各事業の推進に尽力されている学校、教育委員会関係の皆様には心から敬意を表します。

目標の達成度を概観しますと、学校教育の充実に係る成果が前年度に続いて良好である一方、歴史文化の活用と伝統文化の継承に係る事業には依然として多くの課題が残されているようです。価値観の多様化と相まって市民の学習ニーズも見えづらくなっています。教育の目的目標を成果指標（達成すべき目標値）に落とし込む作業は極めて骨の折れるものではありませんが、これらをいかに適切に設定するかによって、単なる結果としての数値にとどまらず、事業の成果や課題の内実がその過程とともに可視化しやすいものとなるはずで

本報告書を拝読して気づかされる特に顕著な点は、小中学校における読書活動の推進について、図書貸出冊数の値から極めて良好な成果が得られていることです。今後はその内実にも迫ってみてはいかがでしょうか。読書といえばとかく小説や物語と考

えがちですが、いわゆる新書を含めた教養書にも視野を広げられることを提案いたします。読書は生涯にわたってあらゆる学びの基盤となりうる活動です。例えば、担当教科の授業の中で読書案内を試みられると、授業だけでは扱いきれない魅力的な学びに児童生徒をいざなう道筋ができます。何十年も前からこのような取組を進めているフィンランドは、国際学力調査において、読解力、数学的思考力、科学的思考力のいずれの点でも上位を維持している国として知られています。

小中学生を含めた市民を「学びの主体」として事業に巻き込む視点も重要です。例えば、地域ゆかりの作家の著作や、それらの人物に関する文献を図書館に備えることが教育委員の先生方から提案されています。これは、行政サービスとして不可欠な取組と言えるでしょう。可能であればそれに加えて、学習資源としての文化、自然、産業、それらが盛んになってきた歴史、それらに取り組んできた人物や組織等を探究する機会を学校や社会教育の場に設け、その学びから得られた図書等の購入を児童生徒が学校図書室に、市民が公共図書館にそれぞれリクエストできるような環境を醸成されてはいかがでしょうか。このような事業が継続すれば、学びの成果はやがて、家庭生活の豊かさや職能形成、まちづくりにも生かす道が拓かれることでしょう。

生涯にわたる学びの支援方策の一環として、キャリア教育の意義が近年ますます注目されています。キャリア教育は単に就職直前の学年でのみ行うものではありません。人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意志決定能力を育成する観点から、どの校種においてもさまざまな学習指導を通して実践されるべきものです。このような観点から、市立高等学校において推進されている「キャリア教育の充実」については、指導過程や決定進路の満足度を含め、具体的に掘り下げた現状・課題分析と、成果の記述を期待したいところです。生涯にわたる学びには、スポーツやレクリエーション活動も含まれます。次期事業の点検評価の指標には、「生涯にわたる健康づくり・体力づくり」の視点を含められることを勧めます。

これらの実現を真剣に検討しようとするれば、いわゆる縦割りの弊害除去をはじめ相当に大胆かつ弾力的・創造的な発想が必要になるかもしれません。備前市教育委員会関係者の皆様には、学びの主体としての市民の皆様を巻き込んだ取組を心から期待いたします。

次年度の点検評価に向けて改善を望みたい点を挙げるとすれば、現状や取組状況についての記述と、課題や次期目標についての記述とを明確に区別していただきたいことです。本来の点検評価は、前者の記述に基づいて後者が述べられるように組み立てられるものでしょう。部分的に、現状や取組状況のみで記述を終えられているところや、逆に取組の現状に触れられず、課題や努力目標のみの記述にとどまっているところが散見されます。

令和5年5月、新型コロナウイルス感染症は2類から5類感染症相当に移行しました。これを機に、本報告書から得られた成果を継続的に拡大するとともに、課題の克服を次期事業の目標に効果的に組み入れるなどして、市民の皆様がそれぞれの取組を通して、豊かな学びを実現するとともに、その成果を生かせるような支援事業を推進していただきますことを祈念いたします。

令和 6年 2月 8日

岡山理科大学
教育推進機構 教職支援センター
准教授 皿 田 琢 司